

クメール舞踊の冠

女性用頭飾り(古典舞踊衣装)(標本番号H217132) カンボジア王国

福岡 正太 (ふくおかしょうた)

本館文化資源研究センター



表紙の写真は、カンボジアの古典舞踊の女性役に用いる冠である。塔のように高く伸びた飾りが印象的である。踊り手は、冠、頭飾り、首飾り、腕輪、足輪など

さまざまな装飾品と衣装を身に付けて踊る。古典舞踊には、男性、女性、魔物、猿の四つのおもなキャラクターのカテゴリがあり、それぞれ特徴的な衣装や装飾品がある。ちなみに猿以外のキャラクターは、すべて女性の踊り手が演じるのが古典舞踊の特徴である。

このページの写真は、男性役と女性役の基本的な衣装と装飾品をマネキンに着付けたものである。衣装には、ボタンやホックの類は一切ついていない。着付けるたびに、針と糸で縫い合わせてとめていくのである。このやり方なら、踊り

手の身体にぴったりと合わせてしっかりと着付けることができる。しかし、一人で衣装を着ることはできないし、着付けには大変手間がかかる。

カンボジアの古典舞踊の世界では、上演の前に必ずソンペア・クルーとよばれる儀礼をおこない、師や精霊あるいは芸能の神に対して祈りを捧げ、上演の無事を祈る。ソンペア・クルーをおこなうあいだは、舞踊に用いる冠や、魔物と猿役が頭からすっぽりとかぶる仮面を祭壇に並べ、供物をそなえ線香をあげる。衣装を着けた踊り手たちは、リーダーを先頭に祭壇の前に並んで座り、手を合わせる。この祈りが終わってはじめて、踊り手たちは冠や仮面をとってそれを身に着けるのである。